

第一回 安吾賞



新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。坂口安吾生誕百年である本年、挑戦者を応援する都市風土を育み全国に発信するため、安吾の精神を具現しさまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」を創設した。



ANGO Awards

Ango Awards
[安吾賞]

宣言書

坂口安吾が生まれ、青春の思索を育んだ地である新潟市から

世俗の権威にとらわれずに本質を提示し

反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する

現代の安吾に光を当てたい。

日本人に大いなる勇気と元気を与え

明日への指針を指し示すことで現代の世相に喝を入れる

人物や団体に [安吾賞] を贈ることを

ここに宣言する。

2006年2月17日 安吾忌に寄せて

選考委員

野田一夫 新井満 池田弘 猪口孝
河田瑠子 齋藤正行 坂口綱男 古海正子

新潟市長 篠田昭

日本文化私観

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、
ただ、そのやむべからぬ必要にのみあてはまれば、
書きつくされなければならぬ。

桜の森の満開の下

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、
女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。
そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も
彼の身体も延した時にはもはや消えていました。
あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめていた。

墮落論

墮ちる道を墮ちきることによって、
自分自身を発見し、救わなければならない。
政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。

安吾賞の劈頭を飾る日本人

推薦人代表 松岡正剛 編集工学研究所所長

私は越後周辺の風土が育んだ人材に、格別の関心がある。良寛や鈴木牧之や會津八一、山本五十六や大倉喜八郎や北一輝、そして長谷川海太郎や小川未明や坂口安吾である。そこには共通して、どこか反骨と癡祭が貫いたものがある。

なかでも坂口安吾は現代日本の病巣に直裁に切り結ぶ人物として、特筆に値する。戦後社会に向かつてべらぼうな啖呵を吐いて、日本人の安逸の日々に警鐘を鳴らした。たとえば武士道に逃げこむ心情を断罪し、フオークの背にごはんを乗せる日本人を笑った。他方では『白痴』や『夜長姫と耳男』、『青鬼の禪を洗う女』をはじめとする妖しいファンタジーを何作も書いた。

その坂口安吾を記念する「安吾賞」を新潟市が設定したというので驚いた。血迷ったか、卓抜した英断か、ついに安吾に脱帽したのかは分からない。しかし、選考委員長に野田一夫さんがなったと言うのでちょっと安心した。野田さんは、私が今日の日本人が読むべきは安吾の『日本文化私観』と金子光晴の『絶望の精神史』でしようと言った瞬間に、そうだ、この二人がこれからの日本に必要だと大声を上げた人なのだ。

さらに、その第一回受賞者が野田秀樹さんになったと聞いて、この賞がやっぱり卓抜な英断にもとづいたものなんだと確信できた。平成元年初演の『鷹作・桜の森の満開の下』は、『夜長姫と耳男』を加えて構成したみごとに作品で、安吾になりかわって良識めく見解をゆさぶりに、日本に眠る闇の声をよみがえらせ、安吾にふさわしい平明なことばを縦横に射出させていた。

安吾夫人の『クラクラ日記』を読むとわかるのだが、坂口安吾はインチキが嫌いで、「おもしろい人」がめっぽう好きだったのだ。野田秀樹さんは「安吾賞」の劈頭を飾るにふさわしい日本人である。

原作・桜の森の満開の下
写真：NODA・MAP

第一回安吾賞

野田秀樹

劇作家
演出家・俳優

劇団夢の遊眠社で八〇年代の若者に絶大な共感を得たが、九十二年人気絶頂の時期に突然劇団を解散、名声にくるりと背を向けて演劇の本場英国に留学してしまう。帰国後、既成の手法にとらわれず「野田流」とも言える演劇手法でシリアスなテーマに果敢に挑戦し日本の演劇シーンをリードしてきたが、〇三年の英国公演 (RED DEMON) では酷評される。しかし、その「痛手」がさらに野田演劇を深めることになった。本年、再挑戦した英国公演 (THE BEE) が成功を収め、新聞雑誌を賑わせ日本に明るいニュースをもたらしたのだ。奇しくもこの安吾賞選考の時期にあたっている。

十ヶ月後に生まれ自らを安吾の生まれ変わりと言語の野田秀樹氏が、記念すべき第一回・安吾賞を獲得したことを、天国の安吾も喜んでいない。

ネイションもステイトもジェンダーも越える
落ちて墜ちてそして甦生する男



写真：NODA・MAP

野田秀樹・年譜

- 1955 12月20日長崎県に生まれる(神戸島)
- 1971 東京教育大学附属駒場高等学校入学
- 1972 処女戯曲「アイと死をみつめて」自作自演
- 1975 東京大学入学・演劇研究会に所属
- 1976 劇団夢の遊眠社結成
- 1983 「野獣降臨」第27回岸田國士戯曲賞受賞
- 1986 「野田秀樹の十二夜」
- 1987 「野獣降臨」エディンバラ国際芸術祭参加
- 1988 「彗星の使者」第1回ニューヨーク国際芸術祭参加
- 1989 「野田版 国姓爺合戦」
- 1990 「半神」エディンバラ国際芸術祭参加
「野田秀樹のから騒ぎ」
- 1992 「野田秀樹の真夏の夜の夢」
劇団夢の遊眠社解散
全43回公演 1,205ステージ
文化庁芸術家在外研修制度の留学生として
1年間英国滞在
- 1993 企画製作会社「NODA・MAP」設立
- 1994 「キル」「虎 野田秀樹の国姓爺合戦」
- 1995 「廣作・罪と罰」「し」
- 1996 「TABOO」「赤鬼」
- 1997 「赤鬼」日・タイ現代演劇共同制作公演
- 1998 「ローリング・ストーン」
「赤鬼」バンコク公演「Right Eye」
- 1999 「半神」「パンドラの鐘」
- 2000 「カノン」「農業少女」
- 2001 「2001人芝居(にせんひとりしばい)」
「廣作・桜の森の満開の下」
「八月納涼歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』」
「売り言葉」
- 2002 「RED DEMON」英国公演・「オイル」
- 2003 「八月納涼歌舞伎『野田版 鼠小僧』」
「透明人間の蒸気」・オペラ「マクベス」
- 2004 「赤鬼」ロンドン・タイ・日本3バージョン連続上演
「走れメルス」
- 2005 「野田版 研辰の討たれ」(再演)
「赤鬼」韓国バージョン
「廣作・罪と罰」
- 2006 「THE BEE」英国公演
「ロープ」(公演予定'06年12月~'07年1月)



安吾との出会いは大学の頃。安吾は無頼派と呼ばれていたが、その生き様はとても現代人には真似できない凄みのようなものを感じていた。当時のアングラ演劇が陳腐に思えたものだった。安吾の原作で劇をやらせてもらった上に、賞までいただけるなんて、安吾に感謝したい。

劇団夢の遊眠社で八〇年代の若者に絶大な共感を得たが、九十二年人気絶頂の時期に突然劇団を解散、名声にくるりと背を向けて演劇の本場英国に留学してしまう。帰国後、既成の手法にとらわれず「野田流」とも言える演劇手法でシリアスなテーマに果敢に挑戦し日本の演劇シーンをリードしてきたが、〇三年の英国公演 (RED DEMON) では酷評される。しかし、その「痛手」がさらに野田演劇を深めることになった。本年、再挑戦した英国公演 (THE BEE) が成功を収め、新聞雑誌を賑わせ日本に明るいニュースをもたらしたのだ。奇しくもこの安吾賞選考の時期にあたっている。

五十五年、坂口安吾が急逝した



篠田昭新潟市長さんから突然のお電話をいただき、身に余る光栄で大変恐縮しております。私たちは普通に生きていただけなので、このような賞をもらっていいものか躊躇いたしました。市長さんのお気持ちも考え、快く受賞させていただくことといたしました。

私たちはこの拉致事件を通じ、国が国民をどう守ってくれるのかというところで活動を続けてきました。小泉首相(当時)が北朝鮮を訪問して、それ以降は国も積極的に取り上げてくれるようにはなりませんが、それまでは多少の危険も覚悟しながら、活動を続けてきました。

しかし皆さんの支援のおかげで、最初に新潟で救う会が結成され、それが現在では全国までに広がってきました。本当に今まで多くの人に助けられました。これからも体の続く限り、皆さんに関心を持っていただけるよう活動をしていきたいと思えます。また私たちの受賞が拉致問題の一刻も早い解決につながればよいと思っています。



新潟市長
篠田昭

第一回目の「安吾賞」に選ばれた野田秀樹さんは、自分の劇団を人気絶頂の時期に解散し、英国に留学するなど、常に現状に満足せず、先を追い求めるという意味で、挑戦者そのものといえる人です。安吾生誕百年・安吾賞元年にまさにふさわしい人と言えます。

「新潟市特別賞」は、新潟市にゆかりの方に贈らせていただく賞で、粘り強い戦いをされている横田滋さん・早紀江さんご夫妻を応援する思



選考委員長
野田一夫

いをこめて、この度お贈りすることにいたしました。

新潟市はこれからも「挑戦者を応援する都市」として「安吾賞」を全国に発信していきたいと思えます。

第一回「安吾賞」の選考を終えて

私のような人間が選考委員長を務める「安吾賞」は、文学賞ではあり得ない。篠田新潟市長によると「安吾の生き方をした人物を顕彰したい」とのことだから、「生き様賞」とでも言うべきだろうか。文筆の人安吾は、好んで時の通説や権威に挑戦した。もっと重要な点は、多くの人々に共感を引き起こさせて通説や権威につきものの「奢り」「うさんくささ」に一撃をくらわし、時代に新しい風を吹き込んでくれたことだ。「安吾賞」は、国籍・職業・年齢を問わず、正にそういう生き様を示す人物に贈られる賞である。

横田滋・早紀江 新潟市特別賞



横田滋：1932年生まれ。北朝鮮による拉致被害者家族連絡会(家族会)代表。
横田早紀江：1936年生まれ。

- 1977.11.15 横田めぐみさん(当時13歳)拉致される。
- 1997.1 新潟で「救う会」発足。
- 1997.2 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会(家族会)を結成。
- 1997.9 新潟市で「横田めぐみさん等被拉致日本人救出の会」結成総会。
- 2002.9 平壤で行われた日朝首脳会談で、北朝鮮は永年否定していた拉致を認めた。10月15日、拉致被害者5人帰国。
- 2006.4 早紀江さんら被害家族がワシントンへ。米国政府、議会関係者らと面会。27日には早紀江さんが米議会で拉致問題について証言した。28日にブッシュ大統領とホワイトハウスの大統領執務室で面会。

安吾賞音信・ONSHIN

安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・炳五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒蕪たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであらう 大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであらう」と彫つたという。大正十四年豊山中学を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私と』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾 大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教学書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥つたが、それを梵語、バリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー 昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさと』に寄する讃歌、六月『風博士』を発表。牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表。島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック

ラブに陥り、安吾は懊惱し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と訣別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返して自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭和十五）、『木々の精谷の精』（昭和十五）などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美 昭和十七年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を嚙呑みにすることの欺瞞を指摘した。

落ち切ることに真実の救いを発見せよ 昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『墮落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禰を洗う女』を発表。

戦う安吾 昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭和二十七）発表。

急逝 昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八歳。

二〇〇五年六月二十六日に新潟市などが中心となって開催した、市民デイスカッション「まるごと安吾」では、「安吾賞」についてどのような賞の在り方が望ましいか、安吾的とは何かなどを探った。また、作品に提示されている精神からふさわしい人を選んでほしいなどの意見が寄せられた。

クロス・パル 2005/6/26

りゅーとぴあ 2005/10/15

ネス・パス 2006/6/1



上：安吾賞創設記者会見 2006/7/1
左：暗号's Bar in ネスパス 2006/6/1

〇五年十月十五日、新潟市芸術祭2005のメインステージとして市が開催した文化フォーラム「安吾賞を語る」では、安吾賞選考委員に選ばれた八名により安吾、また安吾賞について、それぞれ



倶楽部などの主催で開催された。ここでは、安吾賞には日本人に元気を与えた人器の大きい人にあげたいなどのコメントが寄せられた。

選考会 2006/8/9・10

〇六年八月九日・十日の二日間、新潟市で選考委員会が開催され、約一〇〇名の対象者の中から選考が行われた。宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇氣と元気を与えるもの」をもとに選考が行われ、安吾賞は野田秀樹さんに決定した。

記者会見 2006/9/4

〇六年九月四日、新潟市において、篠田市長、野田選考委員長、選考委員であり安吾のご長男の坂口綱男さんの三名により安吾賞受賞者決定記者会見が行われ

れの思いについて語られた。

坂口安吾の命日である二月十七日に毎年行われるイベント「安吾忌」。〇六年の第五十二回安吾忌において「坂口安吾が生まれ、青春の思索を育んだ地である



新潟市から、世俗の権威にとらわれず本質を提示し、反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する、現代の安吾に光を当てたい。日本人に大いなる勇氣と元気を与え、明日への指針を指し示すことで現代の世相に喝を入れる人物や団体に「安吾賞」を贈る」とする安吾賞の宣言書が読み上げられた。

〇六年六月一日、東京の表参道新潟館ネスパスで安吾賞を誰にあげたらよいかというテーマで、会場を一夜限りのバーに見立て安吾賞創設記念イベント「安吾賞つてどうよ」が、新潟市サポーターズ

た。ここで「野田秀樹さんは夢の遊眼社での名声にあつさり背を向け、ロンドンに渡り、本場の演劇に挑戦し、最初は酷評を浴びたが、決してあきらめず、再挑戦し続け高い評価を受けた。一度失敗しても決してあきらめなかつた生き様が極めて安吾的」とその選考理由が語られた。また篠田市長は、新潟市特別賞について、「めぐみさんを救出したい、決してあきらめてはいけないという、これまでの粘り強い活動に対し敬意を表し、応援する思いを込め横田夫妻に贈ることとした」と述べた。

発表会 2006/10/6

〇六年十月六日、東京において、野田秀樹氏を囲み出版各社、関係者などを招いて受賞発表会を開催した。野田氏は（受賞について）戸惑いもあるが、尊敬する安吾の賞をいただきたいへんうれしいと語った。



安吾賞の記念楯はすべて手作りです。素朴な風情が安吾の生きざまに相応しいと考えたからです。

肖像で大切なことは制作者のデッサン力です。その制作者には、当地で最も優れたデッサン力を持つ彫鍛金作家の亀倉康之氏に依頼しました。素材は銅板で彫鍛金の肉彫（ししぼり）という技法を用いてレリーフ状に造形されています。奔放でありながら、安吾の凛とした表情を表出するのに大変苦労したとのことでした。

背景板には新潟漆器の「節塗」を用い、キャプションの時絵とともに新潟漆器同業組合に制作を依頼しました。

監修：小磯稔（新潟大学名誉教授）
彫金：亀倉康之（日展会員、日工会理事）



安吾が眺めて思索した日本海をイメージして制作された。安吾賞には横作・桜の森の満開の下から桜を、特別賞には日本海を越えて行く千鳥を添えている。

安吾賞選考委員



委員長
野田 一夫
(財)日本総合研究所理事長
多摩大学名誉学長



副委員長
新井 満
作家



池田 弘
(学)新潟総合学院理事長



猪口 孝
中央大学大学院教授



河田 珪子
支え合いの地域づくりアドバイザー
「うちの実家」代表



齋藤 正行
安吾の会世話人代表
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表



坂口 綱男
写真家/エッセイスト
(坂口安吾長男)



古海 正子
IBMアジアパシフィック
人事プログラム担当マネジャー

安吾賞推薦人(敬称略 50音順)

青木 邦雄 (財)JR東日本鉄道文化財団専務理事
青島 健太 スポーツライター
嵐山 光三郎 作家
安斎 隆 (株)セブン銀行代表取締役社長
安藤 忠雄 建築家/東京大学名誉教授
稲盛 和夫 京セラ(株)名誉会長/稲盛財団理事長
上原 明 新潟商工会議所会頭
植村 嗣音 ハーパー研究所監査役/DACグループ顧問
内田 力 (株)コロナ代表取締役社長
梅原 猛 哲学者
荻野 アンナ 作家/慶應義塾大学教授
角川 歴彦 (株)角川グループホールディング代表取締役会長
(株)角川書店取締役会長
(財)日本サッカー協会キャプテン

川淵 三郎 早稲田大学大学院教授
北川 正恭 歌手
小林 幸子 映画評論家/日本映画学校校長
佐藤 忠男 国土交通省事務次官
佐藤 信秋 早稲田大学総長
白井 克彦 俳優
菅原文太 作家/評論家
関川 夏央 新潟放送相談役/日本文芸家協会会員
高澤 正樹 歌手/俳優
武田 鉄矢 小説家
立松 和乎 宣伝会議編集長
田中 里沙 CMプロデューサー/エッセイスト
檀 太郎 新潟経済同友会代表幹事
中山 輝也 セコム上信越(株)代表取締役
野沢 慎吾 (学)服部学園理事長/服部栄養専門学校校長
服部 幸應 医学博士/新潟市食と花の総合アドバイザー
早野 透 朝日新聞コラムニスト
半藤 一利 作家
火坂 雅志 小説家
福武 總一郎 (株)ベネッセコーポレーション代表取締役会長
藤沢 周 作家/法政大学教授
牧 作樹 (株)ティー・ヴィー・キュー九州放送代表取締役社長
松岡 正剛 編集工学研究所所長
三浦 末雄 (株)ミヅマアートギャラリー ディレクター
三田 智子 アルビレックスチアリーダーズ・ディレクター
三田村邦彦 俳優
村松 友視 作家
村山 俊晴 日本銀行監事
山口 昭男 岩波書店代表取締役社長
山本 寛齋 デザイナー/プロデューサー

安吾賞賛同者(敬称略 50音順)

渥美 千尋 在中国日本大使館特命全権公使
泉田 裕彦 新潟県知事
内山 秀夫 慶応義塾大学名誉教授
内海 桂子 (社)漫才協会会長
遠藤 実 (財)遠藤実歌謡音楽振興財団理事長
ジェームス三木 脚本家
篠田 正浩 映画監督/早稲田大学特命教授
瀬戸内 寂聴 作家
檀 ふみ 女優
手塚 眞 ヴィジュアルリスト
福原 義春 (株)資生堂名誉会長
松永 二三男 日本テレビ放送網(株)企画開発担当部長
宮田 亮平 東京芸術大学学長
株式会社旺文社

肩書きは平成18年6月16日現在のものです。



第1回 安吾賞

2006年10月15日 新潟市民芸術文化会館

〒951-8550 新潟市総務局国際文化部文化振興課

TEL. 025-226-2153 FAX. 025-225-7111

e-mail bunshin@city.niigata.lg.jp

URL <http://www.city.niigata.niigata.jp>